

令和6年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

ボランティア自主企画事業

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

- ① ボランティアコーディネーターがその企画立案から指導・助言に携わるとともに、法人ボランティアが学びと活動の循環をしながら成長していくための一助となることを目的とする。
- ② みんなの良さを知ってお互いに協力しながら活動に取り組むことで、日常生活でも他者と協働した生活ができることを目指す。想像を膨らませながら自由に身体で表現することを通して、自分たちで考え作り出す過程を楽しみ、好奇心や創造性を高めることを目指す。

2. 事業の概要

(1) 事業名

「Art and Activity in 吉備～あなたの身体がアートの一部に?!～」

(2) 期日

令和7年3月15日（土）～3月16日（日）1泊2日

(3) 参加者

① 募集対象・人数

県内の小学校4・5・6年生 18人

② 参加人数

企画ボランティア10人 小学校4・5・6年生18人

(4) 企画・運営のポイント

- ① ボランティアコーディネーターは、自主企画事業の趣旨や企画事業の目的に沿った事業運営ができるように、法人ボランティアとの電話やメール、会議など相談の機会を細かく取るようにする。
- ② 法人ボランティアが将来利用団体として手続きができるように、打合せや購入物品の申請などの書類提出や手続きについて指導する。
- ③ 法人ボランティアが計画した活動を実際に体験し、感じたことや改善点を修正できるように、事業当日までに事前研修の日程を確保する。また、事業当日も前泊をして余裕を持って準備できるようにするなど、法人ボランティアが自信をもって事業を運営できるように支援する。
- ④ 参加者に安心・安全に活動してもらえるように、安全管理や配慮事項について法人ボランティアとボランティアコーディネーターで共有する。

3. 活動の内容等

(1) 日程

	3月15日(土)		3月16日(日)
10:30	開会式	6:30	起床・洗面・準備・清掃
11:00	Let's なかよし 2024	7:15	朝のつどい
12:00	昼食	7:30	朝食
13:00	目標づくり	9:00	身体で表現! ?
13:30	仲間とともに謎を解け ～影絵を使って表現チャレンジ～		巨大アートチャレンジ
17:15	夕べのつどい	12:00	昼食
17:30	夕食	13:00	振り返り②
18:30	自分たちで作り出せ! オリジナル ゲーム	13:30	閉会式
20:00	振り返り①		
21:00	入浴		
21:30	就寝準備 就寝		

(2) 活動の状況



【開会式】



【Let's なかよし 2024】



【目標づくり】



【仲間とともに謎を解け①】



【仲間とともに謎を解け②】



【自分たちで作り出せ！オリジナルゲーム】



【身体で表現！？巨大アートチャレンジ】



【振り返り】



【閉会式】



【集合写真】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：89% やや満足：11%

(2) 参加者の声

① 児童

ア. 影絵や巨大アートなど、すべて班で協力して成功させることができ、みんなと仲良くできたから、とても楽しかった。

イ. アイスブレイクや影絵、お楽しみ会、巨大アートをして、自分の班の人と話をできるようになって良かった。

ウ. 巨大アートを作る時、全員と力を合わせることができた。

② 法人ボランティア

- ア. 子供たちの想像力の豊かさ、一つの出来事から広がる発想力に驚かされた。
- イ. 班の中で声掛け、集団行動を意識して動いている子供が多く、協力しながら活動できている子供が多かった。
- ウ. 意見が一致しない時に相手の意見をくみ取って、一つの意見として作り上げる良いところを見つけられ、子供の成長を感じた。

(3) 成果

- ① ボランティアコーディネーターと連絡を細かくとったり、事業当日までに事前研修を行ったりしたことで、法人ボランティアは綿密に計画を練ることができた。また、ボランティアコーディネーターの助言や指導によって、法人ボランティアは自信をもってスムーズに事業を運営することができた。
- ② 安全管理や配慮事項について法人ボランティアとボランティアコーディネーターで共有したことで、安全意識を高めることができ、参加者に安心・安全に活動できる事業を提供できた。
- ③ 学年や経験年数に関係なく法人ボランティアが参加し、経験してきたことを伝え合ったり、役割分担をバランスよくしたりしたことで、組織としての力量が高まった。また、今後のボランティア活動への意識の高まりが見られた。

(4) 今後の課題

一時休館に関わり当初予定した1月開催から時期をずらしての開催となった。日程を変更したことで、企画したにも関わらず当日関わることができない法人ボランティアが出るなど大きな混乱をもたらした。来年度も一時休館のことを考えると自主企画事業の在り方を大きく見直す必要がある。

担当：企画指導専門職 八木 雄治